いろんな国来た多数の移民たちと少数の先住民はこのカナダという国がなった。元々イギリスのコロニーであるカナダが、住民は基本的に白人だ。たくさん伝統文化が違い人たちは一緒に住むから、必ず争う時が来る。その人種差別問題を解決しようと思っているカナダ政府は多文化主義というポレシーを１９７１年で提出した。多文化主義とは、それぞれの異文化団体が、他の文化も尊重し、平等に一つの社会で一緒に住むことだ。しかし、多文化主義は本当に人種差別問題について解決しるのでしょうか。今の段階でこの方針の効果が少しあるが、根本的には問題を解決してないだ。

どうして人種差別の問題があるか、幾つの原因がある。先ずは個人的な問題だ。子供は産まれた頃人を差別しないだ。しかし、育ち方によって、人は人種差別のことをきづきていた。学校は人を差別しないように教育をしていたが、家庭や、社会や、いわゆる学校以外の場所で起こった事件が、例えささえいのことでも子供に影響与えるのだ。それから、マスコミの報道は時々バイアスを付けたことがあるので、民衆の先入観を紛らわせるのだ。例えば、「昨日の夜また黒人窃盗発見」のニュースタイトルを見て、多数の人は必ず「黒人っていつも犯罪を起こしているな」とおもうだろう。犯罪を批判する前に、もう色眼鏡着けて人を見ている。そういう言葉遣いは止められなければならんのだ。そして、政府は多文化主義についての方針を改善するべきだ。学校や、就職や、職場など存在していた人種差別問題を実際の法律で解決しなければならない。私たち、批判、尊重な目で、平等に異文化を見ることは大事だ。

多文化主義は人種差別問題を解決する第一歩だ。それは漸進的なプロセスであるが、百年以上をかかるかも知らないか、無差別に人を対しという標的には必要なものだ。